

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

中国の画家・郭熙は四季の山々を、春は「山笑う」、夏は「山滴(したたる)る」、秋は「山粧(よそお)う」、冬は「山眠る」と描くべきだと

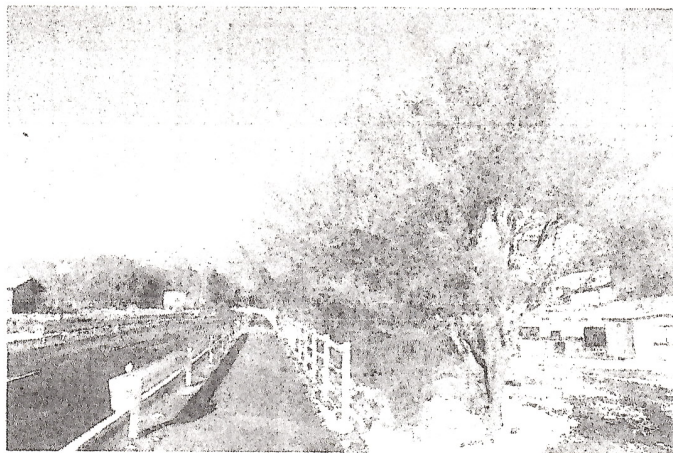
の文がある。桜がほぼ満開を迎えたが、この時期の里に、降雪により一面の銀世界は驚かされた。この情景を郭熙はどのように描くのだろうか。

統一地方選挙が先週から始まった。政治家の演説のコツで大切なのは語り手の「まなざし」、どんなに大きい会場でも、小さな会場でも出席者すべての人間を個々にながめるよう努力する。また女優吉田愛菜さんは「信じる」との問いに「人に裏切られたと言っけれど、その人が見えなかった部分が見えただけ。それもできることは実現でき

る」との言葉がある。電源確保は世界情勢や気候変動で大きな話題となり、経済面でも電源開発は重要な要素を年々増大させている。特に自動車メーカーのEV(電気自動車)での全面体電池の開発

媒を含まない全個体電池の実用化が求められている。特に日本は早い時期から全個体電池の開発に力を注ぎ、大量の特許申請を行っている。液体電池の4倍と言われるコスト要因が解決すれば日本車の国際競争力は非常に高まるとの情報だ。この技術は自動車だけでなく低温から高温まで耐えられ、パソコンやスマートフォンなどに使用すれば、より長時間、パワフルな作業が実現でき、更に宇宙空間で使用されるデバイスなどにも活用でき、より大容量、大出力が実現できたなら飛行機や船などの活用や、現在電気を必要とする施設や家庭への全

個人電池活用の夢が実現できるのではないかと期待してしまう。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



雪化粧し直した山々、満開近い桜、今年の気候が心配になる